

トマトのタバココナジラミに対する各種防除法の検証と防除モデルの構築

【背景と目的】

トマトのタバココナジラミは吸汁害、排泄物によるすす病の他、各種ウイルスを媒介するため、被害が大きい。特に、平成 18 年に都内でも薬剤感受性の低いバイオタイプ Q が確認されて以来、その対策は緊急の課題となっている。そこで、本虫の発生実態および薬剤感受性を明らかにするとともに、近年、開発された様々な防除資材を検証し、それらを組み合わせた効果的な管理技術を構築する。

【研究概要】

- (1) 現地生産圃場におけるバイオタイプ Q ならびに薬剤感受性の実態解明
 - ①バイオタイプ Q の発生実態調査
 - ②バイオタイプ Q に対する薬剤感受性検定
- (2) 各種防除法の効果
バイオタイプ Q に有効な化学的・物理的・生物的防除法の検証
- (3) 各種防除技術を組み合わせた防除モデルの構築
 - (2) を組み合わせた防除体系モデルの検討